

# 学校自己評価報告書

平成30年度第1回

自己評価日 平成30年7月12日(木)

評価対象期間 自:平成29年4月 1日  
至:平成30年3月31日

学校法人 有坂中央学園  
中央工科デザイン専門学校

自己評価確認者

中央工科デザイン専門学校

副校長  
課長  
教務事務

五十部 昌克  
齋藤 義之  
柴田 智宏

中央カレッジグループ

教育本部副本部長  
就職指導センター 所長  
広報管理部 部長

笠原 文男  
金田 行正  
篠原 賢二

# 自己点検・評価表

実施日:平成 30 年 7 月 12 日

学校名:中央工科デザイン専門学校

## 1. 学校の教育目標

### 1. 建学精神

技術の研鑽と創造は進化につながる

### 2. 教育目標

高度情報化社会の一員として、自己の創意を生かし専門的知識と工業技術力を高め、豊かな人間性を持つ技術技能士を養成する。

### 3. 教育基本方針

本学園は、経済社会の一員として、いつの時代にも求められる社会生活の原点である礼儀と作法を体得させ、時代のニーズに即応した専門的理論と高度の技術を修得させることによって、豊かな人間性を持つ真の職業人たるスペシャリストを養成する。そして継続的な改善活動によって、これらの教育的内容の完全な実現をめざす。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 1. 教育力の向上

- ・教師アンケート結果を各教師にフィードバックし、改善に繋げる。
- ・教材内容の見直しを半期ごとに行い、より良い教材に変更する。
- ・指導力・専門的知識を向上させるための研修を適宜行い、時代に即した教育ができるよう自己啓発に取り組む。

### 2. 教育内容の質の向上

- ・時代に即応した教育システムを考察し、常に教育内容の見直しを図りながら学習計画を策定する。
- ・文部科学省が認定する職業実践専門課程に則ったカリキュラム編成の実施。
- ・企業や団体と連携した実践的な職業教育を更に高め、専門職業人の育成をめざす。

### 3. 早期就職内定

- ・毎月行う学年会議で情報共有化を図り、学年で就職サポートを行う。
- ・1年次から履歴書の記載内容を意識させ、自身のキャリアデザインについて考えるよう指導する。
- ・月次内定目標を表にして「見える化」し、学年会議でチェックする。

### 4. 資格・検定・コンテスト目標

- ・資格試験では、昨年度実績と同等か、前年以上の合格率を達成すると共に、全国平均を上回る。
- ・全国規模の公募コンテストにて賞を受賞する。
- ・コンテストのランクや受賞数などから数値化を行い、年度ごとに評価を行う。評価をもとに指導対策を検討する。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
2	・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
3	・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
4	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
5	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

#### ① 課題

- ・No03について。時代のニーズにより求められる技術は変わっていくが、求められる人材像は変わらない。本校の教育方針は、豊かな人間性を持つ職業人の育成であり、今後もこの方針に沿った学生の育成に努めていく。
- ・No04について。教育目標や理念等、保護者には入学前のオープンキャンパスや保護者向けの進路読本、保護者会にて伝えている。
- ・No05について。時代のニーズに合ったカリキュラムと、対応した実践的な職業教育への取り組みの検討。

#### ② 今後の改善方策

- ・No03について。時代のニーズを取り入れるため、各業界団体・企業との連携・交流、各種展示会やセミナー等への参加、最新の技術や現場の意見など、関係分野の情報収集に引き続き努める。CAD関係で県内大手製造業と、施設見学や求人ための校内ガイダンスなど接点が増えてきているので、教育連携を結び教育力の向上を図りたいと考えている。
- ・No04について。教育目標や理念等、更なる周知を深めるため、全クラスに教育目標等を掲示する。保護者については、年に2回行う保護者会や個別相談などにおいて随時伝えていきたい。
- ・No05について。職員が積極的に時代のニーズを反映した技術習得に取り組み、カリキュラムに反映させる。職員の自己研鑽を進めており、外部研修や企業と連携した授業を取り入れている。このことから区分を「3のほぼ適切」から「4の適切」に変更した。

#### ③ 特記事項

- ・本校のモットーは「やってみて考える」失敗から多くを学び、自ら学び、自ら行動する力を養う。様々な体験を通して、多くを学ぶことで、一人ひとりのアイデンティティを高めていくことを真の狙いとしている。
- ・「やってみて考える」「失敗から学ぶ」を実践体験する歩行ラリー研修を通して、PDCA(Plan,Do,Check,Action)の重要性を学ぶ。
- ・担任と就職指導センター職員による、面接指導や履歴書の書き方指導などを実施。就職相談、カウンセリングなどの個別相談にも対応している。

2 学校運営		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・目的等に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
3	・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
4	・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
5	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
6	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
7	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
8	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

### ① 課題

- ・No03について。校務分掌や組織図により役割等が明示化されている。
- ・No04について。就業規則において整備されている。
- ・No06について。業界や地域社会に対するコンプライアンスについて取り組みを強化する。
- ・No07について。自己点検や評価報告書など、情報公開を継続して行う。
- ・No08について。事務処理関係などでルーチンワークになっている業務は、システム化を進めている。

### ② 今後の改善方策

- ・No03について。校務分掌で定めている役割が固定化されないよう、経験年数や実績に基づき、役割は年度ごとに変更するようにしている。  
運営組織をより多くの方に知って頂くため、ホームページで公開する。
- ・No04について。キャリアデザインを主体的に考えられるよう、職員の希望による配置転換制度を充実させる。  
規定の整備のほか、キャリアデザインシートの提出等で職員の希望を聞いていることから、「3のやや適切」から「4の適切」に変更した。
- ・No06について。業界や地域社会に対するコンプライアンスについては、法令・社会規範等を遵守することがこれまで以上に重視されるので、学生の行動指針の策定、内部統制の取り組みを進めると共に、学生への周知に努めたい。
- ・No07について。自己点検や評価報告書などの学校情報の公開はホームページで行っており、今後も継続して随時更新を進めたい。
- ・No08について。情報システムの効率化において、外部に発信する情報については、リニューアルしたホームページで、随時システム更新を進めたい。学園管理システムが現状の運用と乖離する部分が増えてきたので、刷新の検討も必要。

### ③ 特記事項

- ・教育目的、教育目標を実現するため、年度初めの運営方針発表にて副校長が発表を行い、全体周知している。

3 教育活動		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
2	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
3	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
4	・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
5	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
6	・専門分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
7	・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
8	・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
9	・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
10	・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
11	・人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
12	・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
13	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
14	・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

#### ① 課題

- ・No07について。授業評価の実施体制については、教師アンケートを学生に対して定期的に実施している。
- ・No6・8について。実践的な職業教育を行うため、企業と連携して業界で必要とされる技術が習得できるようカリキュラム編成を行っている。また、外部関係者による評価も実施しており、連携する企業数の拡大に取り組んでいる。
- ・No11～14について。教育目標に沿った人材育成が実施できるよう、教員を配置している。随時、全体職員研修や個別研修を行い教育力の向上に努めている。

#### ② 今後の改善方策

- ・No07について。学生に対して行う教師アンケートシステムを学内開発で導入した。集計したデータをどのように分析し、教育内容に反映させていくかの検討を行う。
- ・No6・8について。学校評価を行う外部関係者や連携企業数を拡大するため、就職指導センターが持つ企業とのネットワークを有効に活用し広げていきたい。学生が自主的にインターンシップに参加するよう受入企業の紹介をより多く行っていきたい。(学生が内定先企業にインターンシップに行くなど)
- ・No11～14について。研修計画を体系的に組み、関連企業と連携して実践的な研修を行い、組織全体として教育力の向上を図る。教員がインターンシップに参加し最新の技術を修得することも検討したい。既存の技術を活かして新しい科目を教えられるよう内製化を進めることも必要。職員がコンテスト等へのチャレンジをするよう進めている。

#### ③ 特記事項

- ・放課後の時間を利用して、国家資格や検定試験前の特別対策講座、学生の作品制作に対してはアドバイスや指導を適宜行っている。
- ・写真部、デザイン部、イラスト部、映像制作部、軽音部など、学内の部活動を奨励している。他クラスとの交流や、習得した技術の更なる研鑽など、昼間の勉強では学ぶことのできないことを部活動を通して学生たちは学習している。

4 学修成果		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
2	・資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
3	・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4	・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
5	・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

#### ① 課題

- ・No01について。学生の自己分析による適性把握、インターンシップ、アルバイト、見学、イベントなどを複合的にを行い、就職率向上を図っている。
- ・No02について。資格取得率の向上のため、試験スケジュールを考慮してカリキュラム編成を行い、複数の資格が取得できるよう、効率よく勉強できる時間割を設定している。
- ・No03について。学生の生活態度を把握し、随時学生との面談を行うことで、退学率の低減を図っている。
- ・No04について。在校生のコンテスト受賞やボランティア活動は学校で把握し、評価するようにしている。
- ・No05について。卒業後のキャリア形成を把握するため、就業状況調査票により、卒業生の就業状況のアンケートを実施している。

#### ② 今後の改善方策

- ・No01について。更なる就職率の向上のため、適性検査による適性把握で、学生に合った就職先の紹介を早期に実施する。
- ・No02について。放課後や夏休みなどの時間を使って資格試験対策講座を行い、更なる資格取得率の向上を図る。
- ・No03について。毎月行う学年会議で情報共有化を図り、更なる退学率の低減を図る。退学を決定する根本的な原因の追究も必要のため、教務側の複数人での対応やヒアリング等を行い、事態の把握と解決に努める。
- ・No04について。卒業生の活躍については、教務を通じて報告を受けている。SNS等報告しやすい環境を整えたい。
- ・No05について。就業状況アンケート回収率向上のため、Webでの回答も実施。アンケート自体が本人に届かない可能性もあるので、LINEやメールでの連絡もできる範囲で行う。卒業生ネットワークを強化し、学校から有益な情報を定期的に提供できるようにしたい。

#### ③ 特記事項

- ・資格取得に関しては、電気工事士や工事担任者などの国家資格、色彩検定やイラストレーター、CADなどの検定において、全国平均を上回る合格率で合格している。

5 学生支援		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
2	・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
3	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
4	・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
5	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
6	・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
7	・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
8	・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
9	・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
10	・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

### ① 課題

- ・No01について。就職支援センターを常設し、専任職員を配している。卒業生も利用できる。
- ・No05について。部活動や委員会活動等、顧問等を職員が担当し、課外活動を推進している。
- ・No06について。1人暮らし家賃支援や通学定期支援など、学園生活をおくる上での支援を行っている。
- ・No07について。保護者との連携については、適宜担任を通じて連絡をしている。また年に2回保護者会を設けて、担任と相談ができる時間を設けている。
- ・No09について。社会人のニーズを踏まえた環境整備のため、社会人入試や教育訓練給付の対象コースを用意している。教育訓練給付は平成26年より導入している。
- ・No10について。高校からの依頼により、進路ガイダンスや模擬授業、インターンシップ等の受入を行っている。

### ② 今後の改善方策

- ・No01について。就職指導センターの利用については、在学中から担任を通じて、学生に周知していきたい。
- ・No05について。課外活動を行う学生が増えるよう、推進を続けたい。
- ・No06について。学生生活の支援は、要望に応じて適宜支援内容の変更等、検討していきたい。  
アルバイト紹介センターの設置や駐車場貸し出しなど、学生支援は概ね問題ないため、「3のやや適切」から「4の適切」に変更した。
- ・No07について。保護者会への参加が増えるよう、曜日の変更や、Webを使つての告知方法などを検討したい。
- ・No09について。教育訓練の利用者を増加させるため、ホームページへの掲載やチラシを利用するなど、外部へアピールする方法を検討したい。
- ・No10について。対応する高校生の学年によって、実施内容を変えている。職業の概要を掴みその先に進みたいと思ってもらえる指導方法をさらに研究したい。  
高校の派遣授業については、高校の先生が教えられないことをパッケージ化して提案していきたい。

### ③ 特記事項

- ・本校教師を高校へ派遣し、職業理解のための説明や実習を通して職業教育を行っている。また、高校よりインターンシップ希望者を受け入れ、具体的な仕事内容や業界について説明し、実際の現場で行っている作業体験等の指導も行っている。



6 教育環境		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
2	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
3	・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・No01について。授業に必要な機材等は授業担当者の申請により整備をしている。
- ・No02について。インターンシップについては、各学科で実施可能。

② 今後の改善方策

- ・No01について。機材の購入等は進めているが、授業担当者の裁量によるところが大きいため、施設や設備の定期的な見直しを図る必要がある。
- ・No02について。内定先企業でのインターンシップや、就職指導センターを経由しての受け入れ先の開拓など、学生を受け入れてくれる企業を増やすと共に、インターンシップの実施内容についても魅力的な経験ができるよう、企業担当者と連携することで、インターンシップを利用する学生を増やしていきたい。

③ 特記事項

- ・企業と連携し、実習施設の見学や実習を行っている。
- ・防災、避難訓練を定期的実施している。

7 学生の受入れ募集		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
2	・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
3	・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・No01について。学生募集活動は、適性な活動を行っている。
- ・No02について。教育成果は、オープンキャンパスやパンフレット、学園新聞、ホームページ等で広く伝えている。
- ・No03について。学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基礎としている。また、近隣の他校の学費水準も把握した上で決定している。

② 今後の改善方策

- ・No01について。群馬県専修学校各種学校連合会に加盟し、規定の募集開始時期や募集内容などを遵守している。
- ・No02について。教育成果を広く正確に周知するため、各校で制作に携わり年間3回発行している学園新聞の更なる活用を検討したい。オープンキャンパスの保護者説明会で配るのも効果的。本校のイベントとして特徴的な「歩行ラリー」や、学科単位の就職内定先についてもさらに広く公開していきたい。オープンキャンパスやホームページ、進学媒体において、コンテスト結果や資格の取得状況などを公開しているため「3のやや適切」から「4の適切」に変更した。
- ・No03について。学納金は、入学前に全額一括で納入することになっているが、入金タイミングや分割納入など、学生それぞれの支払い方法に応じて、柔軟に対応している。

③ 特記事項

- ・教育活動の一環として、資格試験の対策講座、ワークショップ、職業理解のためのイベント等、高校生や社会人などを対象に実施している。

8 財務		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
2	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
3	・財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
4	・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

・No01について。財政基盤を中長期的に安定したものとするため、入学者の安定確保が重要であり、募集が順調に伸びるかがその要である。

② 今後の改善方策

・No01について。中長期的に財政基盤を支えるため、入学者数の安定確保をいかに図るかが重要となる。  
 ・No02について。予算案・収支計画は入学者数の予測並びに進級者の見込み数に基づいてを立てており、有効かつ妥当なものとなっているため、継続して行いたい。

③ 特記事項

財政基盤を中長期的に安定したものとするため、入学者の安定確保に向けた募集活動が今後も大切である。入学者数の予測並びに進級者の見込み数に応じて予算・収支計画を立てており、予算・収支計画ともに有効かつ妥当なものとなっている。

9 法令等の遵守		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
2	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
3	・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
4	・自己点検結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

・No02について。個人情報の取り扱いについては、入学時に学生本人からサインして承認を貰っている。  
 ・No03について。学校関係者が集まり、年に2回自己点検を実施している。自己点検結果をまとめ、職業実践専門課程学校関係者評価委員会において、関係者による評価をいただいている。  
 ・No04について。自己点検結果はホームページにおいて公開している。

② 今後の改善方策

・No02について。入学時のサインだけでなく、進級時に再度確認の意味を込めて、個人情報の取り扱いについての説明を実施したい。学園新聞等の情報発信媒体で学生情報を発信する際にも適宜確認する。  
 ・No03について。自己点検内容のさらなる改善と、それに向けた関係各所との連携を進めたい。また、評価委員会における評価委員数の増加についてもさらに進めていきたい。  
 ・No04について。自己点検結果並びに学校情報の公開について、閲覧する人に良く分かってもらえる資料作りを意識して作成している。

③ 特記事項

・業務内容を見直し、業務の簡便化を進めている。  
 ・学園内で閲覧する資料については、ペーパーレス化を進めると共に、印刷が必要な書類についてはフォームを用意し簡易的に作成できるように進める。  
 ・学生ならびに学校周辺の安全を確保するため、「生活安全センター」を設置している。学園内、学園周辺を巡回し日頃から安全対策を実施すると共に、生活上のトラブル相談やアドバイスも行っている。  
 ・学園ホームページにプライバシーポリシーを掲載し、個人情報の取り扱いには万全の態勢で取り組んでいる。

10 社会貢献・地域貢献		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
2	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
3	・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

・No01・02について。地域貢献のため、地域清掃やボランティア活動、地域イベントへの参加などを積極的に行っている。

② 今後の改善方策

・No01・02について。本校の教育資源を十分に活用して社会貢献・地域貢献を行っている。より多くの学生が参加できるよう、学生への呼びかけや運用整備を進めたい。  
献血協力する学生を、クラス内での呼びかけ等によりさらに増やしていきたい。

③ 特記事項

・地域の公民館が実施しているパソコン講座の講師を本校の職員が務め、補助要員として学生がボランティアを行っている。年度末に行っている卒業研究発表会においては、地域の公民館を利用している。地域からの信頼を得られるよう、相互協力を進めている。  
・前橋市内で行うデザインコンテスト(前橋花火大会ポスターデザインコンテスト、前橋まつりポスターデザインコンテスト等)に積極的に参加している。また、デザイン制作の依頼等についても最大限協力し、地域貢献を果たしている。

11 国際交流(必要に応じて)		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1
2	・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
3	・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
4	・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

① 課題

・No01～03について。グローバル化に対応できる人材の育成を進める。

② 今後の改善方策

・No01について。学生の海外留学については、短期の海外研修を行っている。  
電気工事分野の留学生への指導方法の更なる検討と研究を、早急に進めている。  
・No01～04について。学園として様々な英語教育の導入を検討している。グループ内には、様々なシチュエーションを体験し、楽しみながら英語を自発的に学ぶイングリッシュビレッジ前橋を新設した。また、授業においても英語の活用が期待されており、「英語を学ぶ」ではなく「英語で学ぶ」授業ができないか検討している。

③ 特記事項

・留学生の学園生活を支援するため、留学生生活支援センターを設置し、留学生の学習面、生活面のサポートを行っている。  
・グループ全校が集まってのスポーツ大会を実施。留学生クラスも参加して行われるこの大会は、日本のスポーツ大会を留学生に知ってもらい文化交流を図ることや、スポーツを通して学校の枠に捉われない学生同士が交流を深められるイベントとして企画している。